

評価日時：2022年5月13日

会議名称：自己点検評価委員会

開催場所：広島商船高等専門学校

目的：令和3年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の5つの審査項目における評価

項目	審査項目	デジタルカリキュラム対応箇所	評価	評価理由
①	数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	B	・各学科とも学科の特性に応じて技術革新(Society 5.0)について理解し、将来活躍できる技術者を目指すための講義を実施している。社会の変化に応じた対応に不十分な部分はあるが、今後対応して行く。
②	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	B	・学科ごとに船舶、機械、制御、製造、流通産業等におけるデータの利活用について講義を実施している。学科ごとにばらつきはあるがそれぞれの特色の範囲内でツールとしての活用を講義している、
③	様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	B	・流通産業におけるデータ利活用事例を紹介するとともに、実データを用いたデータ解析演習を実施している。学科ごとにばらつきはあるがインフラ、製造についても演習等を実施している。
④	数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	心得 3-1. データ・AIを扱う上での留意事項 3-2. データを扱う	B	・セキュリティーの基礎的な教育を行っている。データを扱う上での情報セキュリティ教育を、K-SEC教材も活用して実施している学科もあり、今後全学的に展開してゆく。
⑤	実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを扱う 2-3. データを説明する	B	・ExcelやC言語による基本統計処理プログラムの作成を行なうとともに、実データを用いた演習を行なっている。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。